2016 年 8 月 15 日

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

注目されていた英国の国民投票の結果は、大方の予想を裏切る EU 離脱となりました。ドル/円相場は直近の安値 103 円 55 銭をあっさり割り込み、2013 年 11 月以来の 100 円割れとなり、一時 99 円ちょうどの安値まで下落しました。

【ドル/円　週足】

英国の EU 離脱は世界経済の先行き不透明感を強め、また米国の早期利上げを妨げるものと捉えられており、中期的にドル/円は円安に大きく戻る見通しはとても描けず、95 円割れをもイメージする必要が出てきました。

95 円水準は、2011 年の安値から 2015 年の高値の 61.8%戻しとなっており、当面のドル/円の下値の目処となります。

しかし、52 週移動平均との乖離で見ると、6 月 24 日につけた 99 円では約 15%の下方乖離となり、リーマンショックを受けドルが下落した 2008 年の下方乖離とほぼ同じ水準になりことから、過度な下がり過ぎの反動での短期的なドルの戻りも期待されます。

また、10 兆円規模の大型補正予算への期待やヘリコプターマネー政策への思惑が円の上値を抑える要因となっていることから、当面は再び 100 円～110 円のレンジ相場が続くこととなりそうです。

■ 短期展望

先週は、前週の良好な米雇用統計を受けたドル高の流れが継続し、一時 102 円 66 銭の高値をつけたものの、週末には予想を下回った米経済指標を嫌気し 100 円台に押し戻される動きとなりまし

本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではございません。掲載している情報については万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。投資の最終判断はお客様ご自身でなさるようにお願い致します。本資料により生じたいかなる損害については弊社及び執筆者には一切の責任を負いかねます。

た。
週を通してみると海外勢の夏季休暇シーズンや本邦勢のお盆休み期間で流動性が乏しくなるなか、方向性のない動きが続いたといえるでしょう。

今週も、市場は薄商いが続く可能性が強く、そのなかで方向性を探る動きとなりそうです。
しかし、目新しい材料がないため、相場が一方向へ大きく抜けることは難しいと思われ、先週同様の 101 円～104 円のレンジ相場が繰り返される可能性が高いでしょう。
ただし、現状の 100 円台半ばの下値抵抗が強い分、逆にこの水準を割り込み 99 円台へ突入した際に値幅が出るリスクには留意しておきたいところです。

本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではございません。掲載している情報については万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。投資の最終判断はお客様ご自身でなさるようにお願い致します。本資料により生じたいかなる損害については弊社及び執筆者には一切の責任を負いかねます。